

市指定文化財の鐘楼堂修復

奥谷組



傾き、銅板葺き屋根の劣化などが進んだため、全面的に修理することになった。

同社は屋根や小屋組みを解体し、傷みが目立つ松材をヒノキ材に取り換えるなどした。

法要後の直会で齋藤正道任職は「1998（平成10）年に客殿、2013（同25）年には本殿を建て替え、鐘楼堂の修復が懸案として残っていたが、無事に修理が終わり、喜んでいる」と挨拶した。

山梨県上野原市の曹洞宗保福寺で15日、同市指定文化財の鐘楼堂の修復を祝う落慶法要があった。工事は京都市南区の奥谷組が手掛け、2017年8月から18年8月に

かけて屋根を葺き替えるなど全面的な修理を施した。写真。

同寺は1558（永祿

元）年、武田家重臣の加藤丹後守景忠を大檀那として創建された。175

1（宝暦元）年の大火で伽藍のほとんどが焼失。本堂、庫裏、鐘楼堂などは55年に再建した。

鐘楼堂は1865（慶

応元）年にも再建されたが、近年になって傷みや

同社の千田真由美副社

長に、齋藤住職から感謝状が贈られた。